

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～



発行  
平成 26 年 12 月 13 日  
相模原市文化財調査・普及員  
広報グループ

文化庁指定  
文化財愛護  
シンボルマーク

両手のひらと日本  
建築伝統の組物を  
イメージしたもの

## ふたつの敷石住居址

津久井地域には国指定の遺跡が 2 件あります。

旧相模湖町の寸沢嵐<sup>すあらし</sup>石器時代遺跡と旧城山町の川尻<sup>かわしり</sup>石器時代遺跡です。指定の理由は、2 件とも縄文時代に普遍的な竪穴住居とは異なる様式の「敷石住居址」の発見によるものです。

敷石住居址の特徴は、住居の主体となる床面を円形や方形に掘り平たい石を敷き、入口と思われる張出部分があることです。張出した部分が鏡の柄のように見えることから柄鏡形敷石住居址とも呼ばれ、現状保存されている寸沢嵐石器時代遺跡にその形を見ることが出来ます。出現する時期は縄文時代の中期の終り頃から後期(約 4500～3500 年前)という限られた時期で、寸沢嵐石器時代遺跡は昭和 5 年に国指定の史跡となりました。

川尻石器時代遺跡は昭和 6 年に国指定となりましたが、その後住宅の建設、県道の拡幅工事などで状況は大きく変わってしまいました。しかし、数度の発掘調査で、多数の縄文後期の敷石住居址が埋蔵しているだけでなく、縄文中期から後期の竪穴住居址も確認されており、こうしたことから、大規模な縄文中期から後期の環状集落址であることが判明しました。

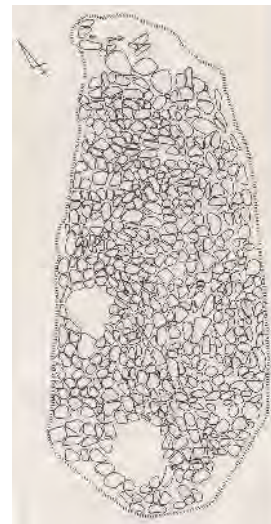
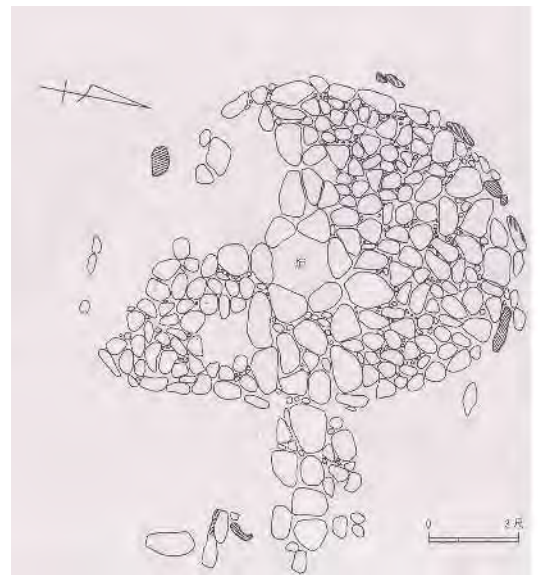
現在も川尻石器時代遺跡では史跡整備にむけ発掘調査が続けられています。公開されている敷石住居は指定当時のまま現地保存され、見学が出来ます。

ぜひ現地に立ち、木々の間から吹いてくる縄文の風を感じてみてください。

(津久井班 久能)

### 目次

- ・ふたつの敷石住居址
- ・新田稲荷<sup>しんでん</sup>神社と呼ばわり山
- ・『さきたま古墳群と吉見百穴バスツアー』同行記
- ・今年の勝坂遺跡縄文まつり
- ・横浜市水道局・相模原沈でん池  
昭和 29 年完成、横浜の新水道



上図(第6輯)  
寸沢嵐石器時代遺跡敷石住居址

左図(第7輯)  
昭和5年調査時における敷石住居址

文部省 1935 年『史蹟調査報告』より

## 新田稲荷神社と呼ばわり山

横浜線淵野辺駅から古淵駅方向へ約 700mほどの位置に新田稲荷神社があります。

文政元年（1818）に淵野辺新田が開拓され地域の鎮守として建立されました。

幾多の変遷後、現在は7つの自治会住民の拠り所として元旦祭、8月の祭礼、七五三祝いなどの行事をおこなっています。祭神は宇迦魂神（稲をつかさどる神）です。この度、東部班では8月24日（日）に行われた神事について見学をいたしました。神主と氏子代表は禊ぎ後、神前に赴き祝詞の後にささげ物を行いました。

また境内の小さな丘は「呼ばわり山」とよばれ、迷い子や行方不明の者が出た時、鐘や太鼓をたたいて呼ばわると、必ず現れるという民間信仰の場所で、頂上には今熊神社があります。

「呼ばわり山」にはつぎのようなエピソードがあります。

宇宙航空研究開発機構（JAXA）の川口教授（探査機「はやぶさ」のプロジェクトリーダー）は、2005年12月に「はやぶさ」が突然、通信途絶となり行方不明となった折、「はやぶさ」の発見を祈願して「呼ばわり山」へ毎夜のように立ち寄り祈願したそうです。

その甲斐あってかどうかわかりませんが、翌年、2006年1月23日に地上との通信が復活した話は今も語り草になっております。

今では、社務所で「迷子を呼びもどす呼ばわり山」の御札も販売しております。

（東部班 荒井）



神事の様子



今熊神社とはやぶさの模型

## 『さきたま古墳群と吉見百穴バスツアー』同行記

旧石器ハテナ館事業として10月25日、小学生5名を含む40名の市民の方と一緒に、横浜線相模原駅前を8時に出発。

車中で皆さんの自己紹介をした後、文化財保護課の方から本日見学する所の説明を聞きながら一路、吉見百穴へ、途中休憩をはさみ10時に到着しました。ガイドの西村さんより、200年前から「吉見百穴」の呼び名があったことや、明治20年に坪井正五郎氏により大発掘が行われ、住居跡と発表されたこと、大正時代に古墳時代後期の墓穴として国の史跡に、また戦時中は横穴群のある岩山に地下軍需工場が建設され、数10基の横穴がこわされた等の説明がありました。次に、さきたま史跡の博物館へ行き、ガイドの説明を聞きながら興味深く国宝の金錯銘鉄剣や古墳群から出た埴輪等じっくりと鑑賞。

昼食後は外に出て、5世紀後半から7世紀のはじめに作られた9基の大型古墳群を見て回りました。

日本一大きな円墳の丸墓山古墳と金錯銘鉄剣の出た稲荷山古墳は上まで登ることが出来ます。全員古墳の上から写真を撮ったり景色をながめたり、当時の人の気持ちになってひと時を過ごしました。

全ての古墳を見てから帰路につき定刻5時に到着。

初めて見た鉄剣の金象嵌の文字や大きな古墳に登ったこと、百穴の大きさ、数の多さに皆さん満足して、事故もなく楽しくツアーを終わることが出来ました。

（田名向原遺跡案内・普及実行委員会 大石）



## 今年の勝坂遺跡縄文まつり

11月3日文化の日、今年も大勢の市民の皆さんにご参加を頂き、「勝坂遺跡縄文まつり」が盛大に行われました。「さねさし」の紙面をお借りして、その状況をご紹介させていただきます。

開会式は、午前10時、相模原市生涯学習部長の主催者挨拶で始まり、「勝坂遺跡縄文まつり実行委員会」設置の経緯の紹介、地元新磯自治会連合会長の祝辞、各コーナー担当の代表者の紹介などの後、まつり開始の合図として「縄文発火式」が行われました。

火起し名人(古代技術を楽しむ会)の起こした火は、若者達(女子サッカー・ノジマステラ神奈川相模原のメンバー)等によりレーされて、土器の野焼者(土器づくりの会)に渡され、周りに土器が並べられた薪の山に着火されて縄文まつりは始まりました。

火は大きく燃え上がり、まつりの気分は一気に高まりました。参加された市民の方々の多くは親子連れで、2haの広い会場のあちこちに設けられた催し物には行列ができました。

縄文体験のコーナーは、ペンダント作り、火起こし、やじり作り、アンギン編み、小魚やザリガニ掴み(河川生物研究クラブ)、弓矢(旧石器ハテナ館)など、縄文まつりならではの出し物で、初めての子どもさんも多く、汗だくになった各コーナー担当も、出来た時のお子さんたちの笑顔にほっとします。また、今年は、笹葺の復元住居の屋根の修理のために、笹束を差してもらった差笹体験も行われました。

サッカーコーナーでは、初心者のお子さんも得意なお子さんも、選手の指導の下に一緒に走り回っています。崖下に転がり落ちたボールをはりきって拾いに行くお子さんも。

小・中学生の弓矢と女子サッカーの的当て対決という珍勝負もあり、見る方々を楽しませていました。

恒例の新磯小学校児童がそれぞれに作られた土器の展示、何れも個性的で見事な出来栄です。見学者のご婦人が「これらが発掘した土器？」と尋ねた程です。

模擬店コーナー(勝坂自治会連合会・新磯観光協会)は、まつりには欠かせない存在です。食べ物やお菓子でまつりは大いに盛り上がり、地元の方々である売り子さんも大忙しでした。

クイズラリーでは、回答紙をチェックしてもらって、ご褒美のどんぐり煎餅などに、子供さんたちは嬉しそうに手を伸ばしておりました。

好天に恵まれ、約600人の市民の皆さんのご参加を得て盛況のうちに終わることができました、約3時間の縄文まつり。これを支えて頂いた、各団体・組織・グループの関係者の方々並びに文化財調査・普及員の皆さんのご協力に厚く感謝を申し上げます。

(勝坂遺跡縄文まつり実行委員会 茅野)



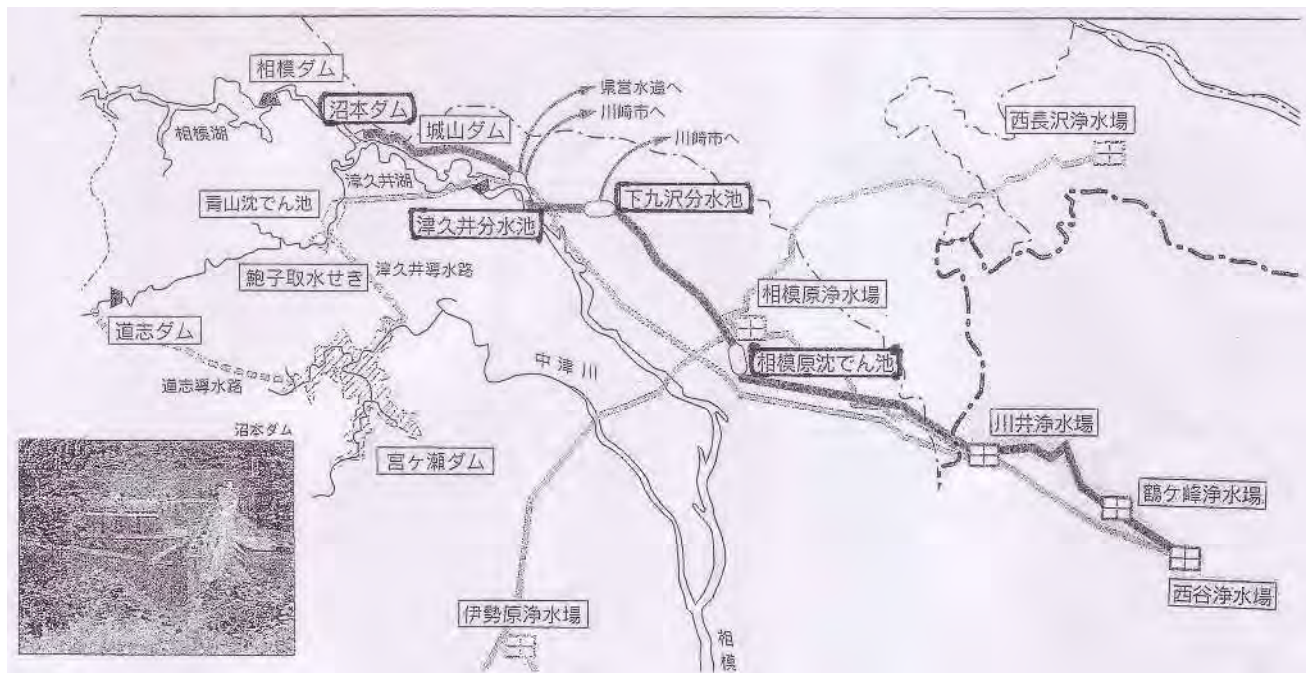
土器焼きの様子



差笹体験の様子

## 横浜市水道局・相模原沈でん池 一昭和29年完成、横浜の新水道

麻溝の人々は、横浜水道貯水池・沈でん池を“ダム”と呼んでいました。  
現在、施設見学は事前申し込み制。施設内での写真撮影は禁止となっています。



横浜水道は明治20年(1887)年、英人技師 H.S パーマーによって完成しました。直線的な水道道は、歩道として人々に活用されました。郷土史家座間美都治氏は27歳の時、関東大震災に遭遇した際、横浜から水道道を歩いて帰る時に、震災から生じた朝鮮人暴動の流言による検問を郷里の下溝近くで受けたことを語っています。昭和29年に増設された横浜水道には歩道もなく、人知れず女子美術大学西側の明治期からの流路を通っています。

**流路** 沼本ダム 津久井分水地 下九沢分水地 相模原沈でん池 川井・鶴ヶ峰・西谷浄水場

**ダム工事に従事した麻溝台 武内福造さんの証言**...昭和23~24年の6月頃、麻溝台からダム工事の作業に出かけました。満州から引き揚げてから2年後のこと、20~21歳のときでした。麻溝台から年上の佐藤栄治さんや何人かも通っていました。当時は手作業でダムの底を三ツ満農(3本マンガ)で掘り起こし、木製のトロッコに乗せて運びました。土は赤土でした。トロッコを数台連結し、それを3人くらいで土手にするところまで押しました。トロッコの側面を引っ張り上げると、泥が出る仕組みになっていました。それから、ダムの底にどこから持ってきたか知りませんが、粘土をトロッコに乗せて運び敷きつめました。日当は、ニコヨン(240円)程度だったでしょう。重い仕事で大変でしたが、若かったのでもなとも思わなかったです。

**ダム工事の証言集**...・戦前、ダム工事のケーブル輸送のために原当麻駅を北方から現在地に移設した。/・当初、陽光台寄りの場所に工事を始めたが、後に現在地にした。/・小学入学前、駅わきから現場までケーブルに乗せてもらった。/・工事用の木製トロッコに乗って遊んだ。/・小舟のようなスクレッパーに泥を入れ、プルがダム底を引っ張っていた。/・ダムの底に水張り、牛が代かきのようにしていた。/・山の神の坂の所を木製トロッコが動いていた。/昭和26年、通水すると多量の漏水で道保川が溢れるほどになり、改修をした。/・古山の大火(昭和20年1月)のとき、飯場にいた朝鮮の人たちが懸命に家財を運び出してくれた。

(南部班 五十嵐・中島)

\*文化財調査・普及員の活動や通信紙『さねさし』のバックナンバーは相模原市のホームページから閲覧できます。

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371